

潜水実習プール棟

水中作業技術の習得を目的とした実習を実施する、全国でも屈指の潜水プールである。水深は1.2、3.0、5.0、10.0メートルと、実習内容に応じて適当な水深での活動が可能となっている。また、水深2.0メートルの水中溶接・溶断実習専用プールも完備している。

ポンベから空気が供給されるスクーバ式潜水器だけでなく、陸上のコンプレッサーからホースを通じて空気が供給される送気式潜水の設備も有している。

また、海の建設工事には欠かせない測量に必要な器械も保有し、測量実習を実施している。

<保有施設・設備・器械>

潜水分野

- 高圧コンプレッサー（ポンベへの空気の充填に使用）
- 低圧コンプレッサー（送気式潜水における送気に使用）
- スクーバ式潜水器 ○ヘルメット式潜水器 ○全面マスク式潜水器
- 1人用再圧室 ○床上クレーン ○直流アーク溶接機 ○水中スピーカー
- 水中通話装置（有線） ○水中ビデオカメラ 等

測量・工事分野

- トータルステーション ○反射プリズム ○デジタルセオドライト
- オートレベル ○音響測深機 ○シュミットハンマー 等

環境分野

- スミスマッキンタイヤ型採泥器 ○重力式コアサンプラー ○携帯型pH計 ○照度計
- 透視度計 ○ROV 等

①潜水プール全景



潜水プールの面積は 25 メートル×10 メートルある。

②スクーバ式潜水実習



水深10メートル部分での潜降・浮上の練習の様子。水深が比較的深いため、潜降・浮上の技術を習得しやすい。

③送気式潜水器を使用した石均し実習



港の防波堤などに使用されるケーソンなどの構造物を、安定して設置するためには基礎が必要となる。基礎の材料の石を工事の目安になる遣り方定規に合わせて、平らに均すことを「石均し」という。写真では送気式潜水器の1つであるヘルメット式潜水器を使用している。他には全面マスク式潜水器も有していて、どちらも陸上との通信を取りながらの実習が可能である。

④水中溶接実習



電気の火花により金属を溶かして、接合や切断をするアーク溶接やアーク溶断は、水中の鋼製構造物の修繕や沈船の引き上げなどでも用いられる。本校では水中溶接・溶断実習専用プールでどちらの技術も習得できる。